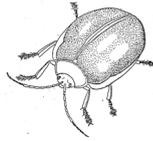


たんぽう



ハラアカコブカミキリ, 北但馬に定着か

小西和夫

北但馬 (香美町香住区御崎) でハラアカコブカミキリ *Moechotypa diphysis* (Pascoe, 1871) を確認したので報告する。

2021年5月, 余部崎灯台近くの林道脇で広葉樹の伐採木に多数貼りついており, 雄を背負って材上を忙しく歩き回るペアも多く見られた。林道の少し離れた場所の倒木でも確認され, この地ではすでに定着していると思われる。

対馬の特産種だった本種は, シイタケ楢木等の移入により九州から四国, 中国地方に分布を拡大しており, 近年では岐阜, 埼玉, 千葉, 茨城でも発見されている。兵庫県内のハラアカコブカミキリについては1960年代に伊丹市で多数得られたとの記録があり, 2009年には姫路市安富町でシイタケ楢木から1頭が確認されたが, いずれも楢木や薪の移入に伴う偶産種と推定されている。2017年には鳥取市, 2018年には岩美町でも確認され, 兵庫県に侵入・定着するのは時間の問題であると思われる。

なお, 御崎集落ではシイタケの原木栽培は行われておらず, 侵入経路は不明である。

○参考文献

- 廣田嘉正・三木三徳・八木正道, 2001. 兵庫県のカミキリムシ: 76
- 岡田浩資, 2010. ハラアカコブカミキリの姫路市安富町からの記録. きべりはむし, 32(2): 55
- 大生唯統, 2018. ハラアカコブカミキリ, 岩美町へ進入. ゆらぎあ, (36): 19
- 高井 泰, 2020. ハラアカコブカミキリの岐阜県からの記録. 月刊むし, (595): 55
- 吉武 啓・楨原 寛, 2017. 茨城県におけるハラアカコブカミキリの採集例. さやばねニューシリーズ, (28): 33

(Kazuo KONISHI 兵庫県西宮市)



図1 ハラアカコブカミキリ, 2021年5月3日.



図2 ハラアカコブカミキリ, 2021年5月25日.



図3 林道脇の伐採木, 香住町香住区御崎.

この裏側はハラアカコブカミキリたちの運動会だった。なお昨年(2020年5月29日)の訪問時には, この辺りの伐採は行われていなかった。

北但馬でチャイロチビヒラタカミキリを確認

小西和夫

2021年5月25日, 北但馬 (香美町香住区御崎) でチャイロチビヒラタカミキリ *Phymatodes (Phymatodellus) infasciatus* (Pic, 1935) を確認したので報告する。

日本海に面した小規模な伐採地 (標高 250m) に, ブドウ類やアケビなどの枯蔓が絡まった粗朶が積まれており, ビーチングで2頭を確認・撮影した。体長4~5mmほどと極めて小さく, 九州・本州に多いとされる上翅が2色の個体である。この枯蔓からは近縁のシ

ロオビチビヒラタカミキリや、カッコウメダカカミキリ、アカネカミキリなども得られた。

本種は北海道から九州、対馬のほか、千島列島、極東ロシア、中国東部、朝鮮半島に分布し、北海道以外の産地は局所的でノブドウ等の枯蔓から羽脱するという。

兵庫県ではこれまで未記録と思われるが、近隣の京都府(養老山 1993)、大阪府(箕面 1940、島本町 1994)に古い記録があり、奈良の春日山でも得られている。最近では島根や山梨県からの報告がある。

○参考文献

東 浩司・谷川良寛・望月寛人, 2017. 奈良春日山原始林と周辺のカミキリムシ.

廣田嘉正・三木三徳・八木正道, 1999. 大阪府のカミキリムシ.

廣田嘉正・三木三徳・八木正道, 2001. 兵庫県のカミキリムシ.

岩田隆太郎・水野弘造・常喜 豊, 1993. 京都府のカミキリムシ. 関西昆虫談話会

大林延夫・新里達也, 2007. 日本産カミキリムシ. 東海大学出版会

齋藤勝巳・板倉充洋, 2020. チャイロチビヒラタカミキリを山梨県で発見. 月刊むし, (598): 34-35

氏原靖志, 2021. 島根県におけるチャイロチビヒラタカミキリの記録. すかしば, (68): 34

(Kazou KONISHI 兵庫県西宮市)



図1 チャイロチビヒラタカミキリ①.



図2 チャイロチビヒラタカミキリ② (触角欠損).



図3 枯蔓の絡まった粗朶.

加古川市で越冬明けウラナミシジミを初記録

島崎正美・島崎能子

ウラナミシジミ *Lampides boeticus* (以下、本種) が成虫で越冬することはよく知られているが、兵庫県における本種について「兵庫県の蝶」(2007) には6月以降に第一化が発生するが、それ以前の観察記録はないと記載されている。その後、「加古川の里山・ギフチョウ・ネット」代表の竹内隆氏から、小野市黍田で越冬明けのメス



図1 2021年3月30日: 比較的新鮮なオス.



図2 2021年3月30日: 鱗粉色があせたオス.